

November 2014 subject reports

## JAPANESE B

### Overall grade boundaries

#### Higher level

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0-12	13 - 25	26 - 43	44 - 57	58 - 72	73 - 86	87 - 100

#### Standard level

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 11	12 - 23	24 - 41	42 - 56	57 - 72	73 - 87	88 - 100

### Higher level internal assessment

#### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 12	13 - 17	18 - 21	22 - 27	28 - 30

### 試験結果に見る受験生の学習内容や適性

サンプルトピックから見ると、学習内容は IBの言語ガイドラインにもとずき  
 選択されていた。受験生は、学習した語彙を流暢に使いこなし、Part1 発表 および  
 Part2意見の交換を 高レベルにこなせていることが見受けられた。

## 評価基準に基づく受験生の到達度

評価基準A: 受験生の発表は 全体的に 高レベルに 到達できていた。

評価基準B: 受験生の 試験官との 受け答えは 高レベルに 行われていた。IA では さらに 試験官との 公式な 受け答えが 必要なサンプルも 見受けられた。

## 今後の指導に関する提案や助言

1. IA に関する 試験時間、Part1 およびPart2構成は よく浸透されてきていた。IBの試験で決められた時間内に まとめる発表Part1 を 身につけさせることも IAの前の 指導の一つと 提案したい。

2. 写真 にともなう 題名 または キャプション は よく浸透されてきていた。題名 または キャプションは 長い文章や 質問を 取り入れるのではなく 簡潔であることを 提案したい。受験生が Part1を 構成する為の 目安となる為で 題名 または キャプションは 読んで 答える為ではないと 提案したい。

## Standard level internal assessment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 12	13 - 17	18 - 21	22 - 26	27 - 30

## 試験結果に見る受験生の学習内容や適性

1.受験生の言語習得レベルにより 低レベルから 高レベルの 試験結果が見受けられた。

2.Part 1に関して 写真を 説明するに とどまった受験生の サンプルが見受けられた。

3.IBで決められた 試験時間は 全体的には 守られていたが、Part 1 に関しては 長すぎたり 短すぎたりした 受験生のサンプルが 見受けられた。

## 評価基準に基づく受験生の到達度

評価基準A: ほとんどの受験生は さまざまな 語彙 および 文法内容を使い 学んだトピックについて 話すことができていた。しかし、Part 1 に 与えられた3-4分間を 十分使いこなせず 戸惑うサンプルも 見受けられた。

評価基準B: ほとんどの受験生は 事実、また 簡単な自分の意見を 述べるのが出来、積極的に受け答えできていた。しかし、簡単な質問 それに対する回答にとどまる サンプルが ほとんどで、トピック または 回答したことに対する 会話の展開は あまり見受けられなかった。

## 今後の指導に関する提案や助言

1. IAに関する 試験時間、Part1 およびPart2構成は よく浸透されてきていた。IBの試験で決められた時間内に まとめる発表Part1 を 身につけさせることも 指導の一つと 提案したい。
2. Part1および Part2 の2部構成は 浸透できている。Part2は 単なる質問 それに対する受験生の 回答にとどまるだけではなく 回答を踏まえての 会話の展開を さらに 提案したい。
3. 受験生の声 または 試験官の 声が聞き取りにくかったり するサンプルが 見受けられた。サンプルを 提出する前に 再度 確認することを 提案したい。
4. 写真 にともなう 題名 または キャプション は 長い文章や 質問を 取り入れるのではなく 簡潔であることを 提案したい。受験生が Part1を 構成する為の 目安となる。
5. IBオーラル試験を 始める前に 受験生が 名前、IB番号、学校名を 日本語で 述べることは 浸透してきているので さらに 統一できるように 提案したい。

## Higher level written assignment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 7	8 - 11	12 - 14	15 - 18	19 - 21	22 - 25

## 試験結果に見る受験生の学習内容や適性

今年度の基準は全体的に高く、非常に良く書けていたものが多かった。

## 評価基準に基づく受験生の到達度

### Criterion A Language

全体的に、受験者は幅広い文型と語彙を使って、正しい日本語で正確に書くことができた。特に漢字を使おうとがんばっている姿勢が見られたのが良かった。

### Criterion B Content

この内容の基準は、Written

Assignmentでいつも一番難しく、一番点数が低い。読んだ本の内容について全然触れなかったり、触れたとしてもほとんど使ったり応用したりしていない作品がいくつかあった。特に、読んだ話の終わりを変えて自分の新しい作品を作り出している場合、ほとんどの受験者が日本語を問題なくすらすら書けるので、自分の想像力を活かしてさっさと書いてしまい、原文とつなげるのを忘れてしまっている印象を受ける。

### Criterion C Format

大多数の受験者が適切なテキストタイプを使って書くことができた。

### Criterion D Rationale

受験者のうち何人かは趣旨を正しく書くことに成功していたが、多くは原文のあらすじをまとめただけの内容で、IBのGuideで要求されている内容になっていなかった。受験者は自分でGuideをしっかりと読み、何が要求されているのかを再確認、把握し、それにそって趣旨を書かなければ減点の原因になってしまう。

## 今後の指導に関する提案や助言

### Written Assignment

は「自分の想像力を活かした作文」ではないことを、しっかり受験者に分からせてください。特に語学力が一番強い受験者が、「なんだ、お話を書くだけか、そのぐらいなら簡単にできる」という考えかたで気軽に取り組み、Criterion Bで大きく点を落としてしまっているのが目立ちます。

趣旨に期待されている内容をしっかり教えてください。特に、原文と直接な関係があり、それが明確に説明されていなければCriterion Dで3点取れないことを強調してください。

## Standard level written assignment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 7	8 - 11	12 - 14	15 - 18	19 - 21	22 - 25

### 試験結果に見る受験生の学習内容や適性

幅広い内容、達成度のWrittenAssignment

が提出された。去年度と比べ、いろいろなテーマの内容が出てきたが、「世界問題」、特に環境問題に関するWritten Assignment がまだまだ多い。

### 評価基準に基づく受験生の到達度

#### Criterion A: Language

大多数の受験生が適切な文型や語彙を使うことができた。必死にがんばって様々な文型や難しい漢字を使おうとしている姿勢が伝わった。ただし、無理に難しい文型を使おうとし間違えてしまい、意味が通じなくなる場合もあったので、要注意。中には字数が足りなく1点減点された受験生もいた。

#### Criterion B:

去年度と比べ、与えられた3つのテキストを使い、そこから情報を拾ってwritten assignmentを書かなければならないと理解している受験生の数は多かった。しかし、それに成功できていない、または、テキストの1つか2つしか使わなかった受験生が多かった。テキストをしっかり使っていなければ、Criterion B

で高得点を取ることはできない。また、原文の内容をそのまま書き写すのではなく、何かの形で引用したり、自分のものにして使わなければならない。一番下の受験生は、テキストをほとんど使わず、自分の知識から書いていた。

全体的に、自分の文章のまとめかたはよくできているが、必ず段落わけをして書くこと。

#### Criterion C: Format

ほとんどの受験生が適切なテキストタイプを選び、書くことができた。段落わけができていない受験生が多かったことに、驚かされた。800字以上書いている受験生もいたが、この場合、採点を800字で打ち切るのので、結果的に文章の結末がないとみなされ、減点された受験生もいた。

## Criterion D: Rationale

3点満点をとる受験生は非常に少なかった。文章の読者、テキストタイプと文章の目的はよく書けているが、ほとんどの場合、原文とのつながり又どのように原文を応用して目的を達成したかが明確になっていなかったため、最高点を与えることができなかった。

## 今後の指導に関する提案や助言

1. 2015年の5月からは原文の選択が受験生自身の責任になるので、原文の選びかた、使いかたについて、このタスクを始めるまえに教師がしっかりと指導しておかなければならぬ。特に、インターネットから何かを適当に持ってくるのではなく、(漢字、文法面で)自分が読めるレベルの文章で、assignmentの中で拾って使える情報がいくつか入っている原文を見つけることがキーポイントになる。

2. 段落わけをして書くように指導してください。

3. 趣旨に、3つの原文をそれぞれどのように使ったか、明確に書くように指導してください。(原文1のグラフからデータを読み取り、原文2からは賛成する人の意見を知り、原文3からは反論のキーポイントを知った、など)

4. 環境のテーマだけにかたよるのだけではなく、自分の興味に沿って、いろいろなテーマを選ぶように指導してください。環境のテーマは、子ども向けの読解物がたくさんあって原文が探しやすいが、受験生が原文を使わず、自分の持っている知識から書いてしまう危険性が非常に高く思われます。

5. テーマを選んでいるとき、テーマを絞って、細かい一面について掘り下げて書くように指導してください。例えば、受験生にとって、「日本の食べ物」というテーマは資料も探しやすく、一見すごく魅力的に見えると思うが、すしから箸の使い方、日本の食糧の自給率など全部書こうとすると、まとまりのない、浅い文章になってしまい、高得点はとれないだろうという点にくれぐれも注意させてください。

## Higher level paper one

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 7	8 - 15	16 - 26	27 - 35	36 - 43	44 - 52	53 - 60

## 今回の試験で受験生にとって難しかった内容

今年度の受験者は日本語を非常に上手に読み、理解することができ、全体的に難しい部分はなかった。

## 今回の試験で受験生にとって簡単だった内容

文章を読みこなすスピードも、内容の理解も非常に良かった。

## 各設問ごとの解答結果(得意な点や弱点)

問題A「ミドリムシのスイーツいかが?」は易しかったようだ。10番の、普通のバームクーヘンとミドリムシ・バームクーヘンの味を比べる問題が一番難しかった。

問題Bは「資源になるよ小型家電」という文章だったが、19番が難しく、「制度」と書いた受験者が多かった。

問題C「パブコメで意見を伝えよう」は政治的なないようで、やや難しかった。特に29番、30番の間違えが目立った。29番では「しか」の理解が難しかったのかもしれない。

文学作品の問題D「『青年のための読書クラブ』からの一場面」では、37番から41番の単語や表現の意味の理解が特に難しかった。

問題E「沖縄で理想の先生を演じました」はあまり難しくなかったようだが、52番に「心配」という間違えが目立った。「相談にのる」という表現を知らなかったのかもしれない。

## 今後の指導に関する提案や助言

教科書には載っていないかもしれないが、文学作品に出てくるような単語や表現の知識を伸ばすように励ましてください。幅広く積極的に本を読み、知らない単語は読み飛ばさず、興味を持ち、意味を調べ、覚えるように工夫するといいいでしょう

## Standard level paper one

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 5	6 - 10	11 - 15	16 - 23	24 - 32	33 - 40	41 - 45

## 今回の試験で受験生にとって難しかった内容

いつものことだが、中には読むスピードが遅く、問題C,問題Dまで終わらせることができない受験生も少なくない。今年度は4択問題の中にもいくつか難しいものがあった。

## 今回の試験で受験生にとって簡単だった内容

日本語の質問文を読んで、日本語で答える問題はよくできていた。

## 各設問ごとの解答結果(得意な点や弱点)

問題A「年末年始テレビ」は易しかったようだ。特に、全体的に点が低かった受験生も8番から10番の質問に挑戦していたのはよかった。4択問題の中では、4番が一番難しかった。

問題B「タイへ旅行して」では、最後の16番から19番が難しく、その中でも16番が一番難しかった。短文質問の中では、12番が一番難しかった。11番は問題なかった。

問題C「引っこして東北の人たちの力に」は長かったが、がんばって読みこなしていた。20番では、「相馬市に住んでいました」や、「高校を卒業するまで」と理由を半分しか書いていなかったものが目立った。また、20番から23番全体を通して、理由は正しく書いてあったが、「正しい」・「正しくない」の答えが間違っていないものも多かった。26番では、都市計画課が、町の計画をしているのではなく、実際に町の建物を建てているんだという誤解が多く見られた。

問題D「エコ学校」では、34番の「低」が難しく、「下げる」を選んだ受験生が多かった。意味としては正しいが、文法的にギャップに入らない答えだったので、要注意。36番から39番はいつも受験生が難しいと感じる問題だが、今年も同じだった。特に、36番には「くらす」と書いていた受験生が何人かいたが、「くらす」は原文に入っていなかった。原文から言葉を見つけて書かなければならない。

## 今後の指導に関する提案や助言

1. 読むスピードが遅いので、どんなに頑張っても全部こなせそうにない受験生とは、あらかじめ、試験対策をしっかり話し合っておくといいでしょう。(例えば、問題Aと問題Bは時間をかけてしっかり答える、など)

2. 母語訳ばかりに頼らないで、日本語で単語の意味を考え、日本語で定義する力を伸ばしてください。

3. 「正しい」・「正しくない」・理由を書くの種類の問題が苦手な受験生が多いようなので、たくさん練習してください。

4. 11月の試験期にもJapanese B HLの試験ができたので、B SLが簡単すぎる受験生は、がんばって B HL に挑戦するように勧めてください。

## Higher level paper two

### Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 6	7 - 12	13 - 20	21 - 26	27 - 33	34 - 39	40 - 45



## 今回の試験で受験生にとって難しかった内容

今年度の受験者は日本語を非常に上手に書くことができ、全体的に難しい部分はなかった。

## 今回の試験で受験生にとって簡単だった内容

受験者は幅広い文型と語彙を使い、日本語を書いていた。特に様々な文型や、難しい漢字を積極的に含めようとしている姿勢が伝わり、よかった。

## 各設問ごとの解答結果(得意な点や弱点)

一番人気だった問題は3番の保健室の看護師がいなくなる問題だった。自分の学校の立場から考え、看護師がいなかったら大変なことになってしまうかもしれない、という例が詳しく書いてあった。一つ批判するとしたら、説得の言葉を書こうとしているのが、せめているような口調になっていた作品があった。

第二部では、ほとんど全員が自分の態度を賛成か反対かはつきりさせ、例を使いながら理由をはつきり説明することができた。多くはなかったが、使っている例が、言おうとしていることに沿っていない作品もいくつかあった。

## 今後の指導に関する提案や助言

様々な文型や漢字を一生懸命使おうとしていた努力が伝わってきたのが、非常に良かったので、今後も同じように指導してください。書いている内容をもう少し詳しく考え、読者にとって読んでいて興味深い、おもしろい作品が書ければ、よりよくなります。

## Standard level paper two

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 11	12 - 14	15 - 18	19 - 21	22 - 25

## 今回の試験で受験生にとって難しかった内容

達成度に大きな差はあったものの、ほとんどの受験生が日本語で簡単な話を書いたり、自分の意見を説明したりすることができた。特に難しい内容は目立たなかった。

## 今回の試験で受験生にとって簡単だった内容

受験生が様々な語彙、漢字、文型を使い書こうと努力していた様子が伝わって、良かった。3番や5番を選んだ受験生の多くは、問題を読み手（聞き手）の立場から考え、充実した内容を書いていた。

## 各設問ごとの解答結果(得意な点や弱点)

多くの受験生が1番のユース・クラブの騒音から近所迷惑を起こした問題を選んだが、内容や投書の口調の適切さに大きな差が見られた。ほとんど全員が若い人の立場から書いていたが、迷惑をかけてしまったことについてのお詫びが一言もなかったり、全部大人の責任だと逆に地元の人を責める感じの文もあり、日本人とのコミュニケーションとしては読みづらいものもあった。

2番の美術館の問題はあまり人気がなかったが、美術作品と日本文化の理解を上手につなげたものは少なかった。美術館の開館時間などの案内など、内容が簡単になるすぎる傾向があった。

3番の友だちを励ますメールもかなり人気があった。いろいろな内容のメールが出てきたが、ほとんどの場合、友達への同情と、いくつか具体的な提案が含まれていて、よかった。

4番のゲームの紹介の問題はあまり人気がなかったが、ゲームが楽しいだけでなく、いろいろ学べるというポイントを読み落とした解答が目立った。

多くの受験生が、5番の「今日の海」のアプリ作りの問題を選んだ。海の危険性や、アプリの内容などについては詳しく書いてあったが、多くの場合、ビジネスマン向けのプレゼンテーションであること、目的はお金を集めることだというポイントが落ちていた。スピーチのしめくくりの書き方を知らない受験生も多かった。

## 今後の指導に関する提案や助言

様々な語彙や漢字を一生懸命使おうとしていた努力が伝わってきたのが、非常に良かったので、今後も同じように指導してください。

文法に関しては、いろいろな文型を学習してきたこと、それを使って書こうとしていることが伝わった。文型の数をたくさんこなしていたが、正確さに欠けているケースも多くあった。ペースを少し落とし、教える文型の数は減らす、しっかり定着するまで練習したほうがよいかもしれないでしょう。

母語（特に英語）で考え、頭の中で訳しながら書いているのだろうと思われる文章もあった。日本語の非直接的なコミュニケーションに関しても、もう少し学習するとよいでしょう。